資料7-1

中部様式

差替

令和７年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
（及び地域公共交通計画の評価結果）　概要（全体）

田原市地域公共交通会議
（田原市）

平成１９年３月２３日設置

令和６年３月　第3次田原市地域公共交通戦略計画（地域公共交通計画）策定
（計画期間：令和６年４月～令和１６年３月）

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域間幹線系統確保維持国庫補助金
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

（１）田原市の概要

・人口59,360人※令和２年国勢調査

・渥美半島に位置し、市町村合併で田原・赤羽根・福江の市街地と集落地域で構成

・地理的・産業的条件から、マイカー依存度が極めて高い

（２）第３次田原市地域公共交通戦略計画（地域公共交通計画）令和６年３月

将来像：だれもが安心して移動できるまち

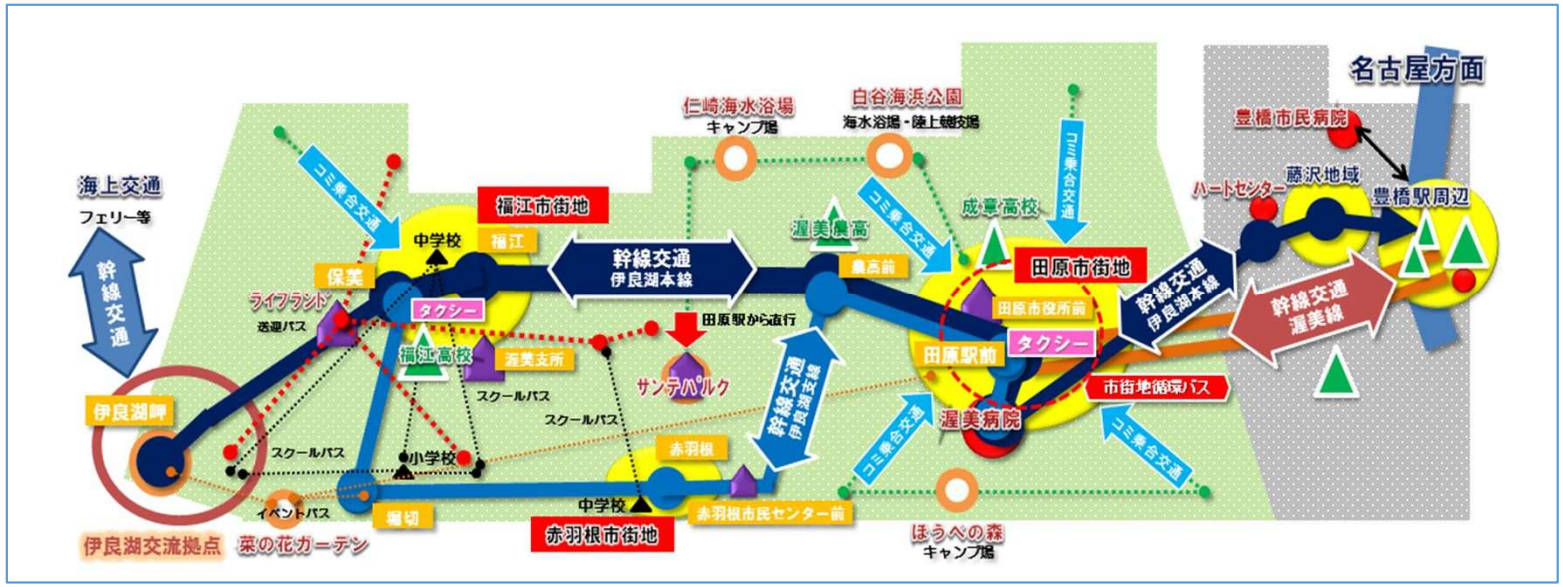
取組姿勢：協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網

全体目標：まちづくりの基盤となる公共交通の確立

計画期間：令和6年度から令和15年度まで

定量的目標：市内における公共交通利用者数の維持（148万人）

：ぐるりんバス１便当たり乗車人数5.0人以上、ぐるりんミニバス3.0人以上



※補助対象路線

・地域間幹線系統補助：豊鉄バス伊良湖本線・支線

・フィーダー系統補助：コミュニティ乗合交通（田原市ぐるりんバス）

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★コミュニティバスの運行	・令和元年10月に路線変更及び廃止（一部統合）	前年比較13%増 （100,998人 ⇒114,092人）	・地域等と連携した利用促進等の結果、路線変更以降最大の利用者数となった。
路線カルテの作成及び地域との協議	・カルテ作成 ・沿線校区への情報提供（表浜線利用推進協議会の開催等）	校区主体のコミバスの利用促進等の実施 ＊年間約22件/沿線校区	・校区に対しコミバス利用状況を報告 ・地域も自分事として考え、地域主体で利用促進等が実施された。
運転免許証自主返納支援事業の継続実施 （H29～）	・免許返納者へコミバス１年間無料乗車券等の支援実施	自主返納支援事業申請者数前年比較2.5%減 （118人⇒115人） コミバス無料乗車券利用者数前年比較4.8%減 （2,031人⇒1,932人）	・返納者数とともにコミバス無料乗車券の利用もわずかに減少しているが、自家用車から公共交通への転換に一定の効果があった。  ［ｺﾐﾊﾞｽ無料乗車券］
高校生バス通学用定期券購入助成の継続実施 （R1～） ※市内高校通学者は５割補助に拡充(R7～)	・市内在住豊鉄バス利用高校通学者へ通学定期購入費３割または５割助成	3割助成申請者数 前年比較0.4%減 （500人⇒498人） 参考：R4→R5減少率17%	・高校生年代の減少 ・田原地域から福江高校へ通学減少 ・利用者数も減少 ・助成割合の拡充により減少率が改善  ［通学の様子］
情報発信の継続	・ガイドブックの作成・配布 ・多言語版バス乗り方情報配架（中国語、インドネシア語、クメール語）全5か国	ガイドブックの全戸配布 （25,000部） 多言語広報への掲示、HP掲載、外国人向けバスの乗り方教室での配布	・ガイドブックを全戸配布することで、公共交通を周知・PRできた。 ・バスの乗り方を多言語化することで市在住外国人等を中心に乗り方を周知できた。  ［ガイドブック］

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
市民まつり、エコフェスタでのブース出展 (R6.10.27、R7.7.27)	・交通事業者・まちづくり会社と協働したブース出展の実施 ・オリジナル缶バッチの配布 ・はたらくクルマ集まれ実施	ブース来場者計約500名 （前年度約700名）	・両イベントとも、多くの方が来場した中で多くの方に対して公共交通をPRできた。 ・特に市民まつりではバスに加え、消防車やパトカー等を集めたイベントを実施し、未就学児やその保護者に対してPRができた。
豊橋鉄道渥美線、豊鉄バスと連携したイベントの実施 （R7.8.3、R7.8.23）	・野田小学校バスの乗り方教室 ・目指せ！バス博士 ・目指せ！渥美線博士	申込者計約160名 （前年度約360名）	・申込期限を短縮したこともあり、申込者数は減少 ・バスで中学校に通学することとなる校区の小学生に乗り方教室を実施 ・関係機関と連携し、継続実施  ［バス博士］
ラッピング車両の導入周知活動の実施(R1～)	・車両にラッピングを実施 ・オリジナルペーパークラフト作成・配布	各種イベントでオリジナルペーパークラフト配布 （累計約400枚） （前年度約400枚）	・各種イベント参加時にペーパークラフトを配布し、未就学児を中心にぐるりんバスへの興味を醸成  ［ラッピング車両］
東三河MaaS「いこまい」を活用した取組	・東三河Maas「いこまい」へのお出かけ情報やクーポンの掲載	沿線事業者の協力によるクーポンの掲載件数 3件	・東三河MaaS「いこまい」の機能が拡充されたため、イベント情報などの情報発信に活用する ・今後も関係機関と連携し継続実施  ［いこまい］

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
伊良湖支線の観光地への延伸	・事業者の協力を得て観光需要の高い菜の花ガーデンへの延伸	令和7年2月より、菜の花まつり開催期間の土日祝限定で路線延伸を実施	・来場者及び主催者から大変好評であったため、開催期間中の平日にも拡大予定。  ［伊良湖支線の延伸］
豊鉄バスサイクルラックバス実証実験の実施（R7.3～、R7.9～）	・事業者と共同で豊鉄バス車両へ自転車用ラックを取り付ける実証実験を実施	令和7年3月に安全性等の確認のための実証実験を実施。同年9月より利用を一般開放して実証実験を開始	・豊橋鉄道渥美線のサイクルトレイン・伊勢湾フェリーと併せてサイクリストの利便性を向上し、公共交通機関への乗車誘導を図る。 ・課題となっている情報発信の手法について検討する。
東三河地区で連携した取組（東三河地域公共交通活性化協議会）(R7.7.19～9.12)	・50円バスの実施 ・東三河なつやすみ公共交通フェスタ、公共交通利用促進ポスターコンクールの実施	前年度比、8月のぐるりんバス利用者17%増（8,335人⇒9,754人） 公共交通フェスタ（来場者数　約1,400人）	・8月（夏休み）のイベント期間、バス利用者数は増加しており、一定の効果があった。 ・集客力のあるショッピングモールでフェスタを、開催したことにより公共交通のPRができた。 
コミュニティバスへのQRコード決済の導入（R6.4～）	・コミュニティバス全線にQRコード決済(PayPay)を導入	利用人数実績 1,776人（R6.4～R6.9） ↓48.6%増 2,639人（R6.10～R7.3） R6年度計　4,415人	・特に臨海部工業の関係者からの利用が多い。 ・昨年度上半期と下半期を比較すると大幅に増加し、利便性向上に貢献している。  ［車内掲示］
中山線のデマンド運行の検討（R6.6～）	・交通会議の分科会を設け、中山線のデマンド化について協議	・前年比較5.8%減（5,506人⇒5,184人） ・令和7年10月よりデマンド運行の実証実験を開始	・中山線をデマンド化することで交通空白地の解消に期待できる。

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

（１）自己評価を行った会議

・令和8年1月9日（金）　田原市地域公共交通会議

（２）市内公共交通利用者実績に対する評価

目標	目標値（万人）	実績値達成状況（※）						目標達成状況
		H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
市内公共交通利用者数の維持	148.0	160.2	107.4	115.7	126.4	140.2	149.2	達成
内訳	**目標値（人）**	**H31年度**	**R2年度**	**R3年度**	**R4年度**	**R5年度**	**R6年度**	
鉄道（渥美線・市内４駅）	659,000	732,365	514,457	557,108	615,367	688,776	714,125	達成
路線バス（伊良湖本線）	232,000	258,213	237,480	218,816	167,344	191,444	200,788	未達成
路線バス（伊良湖支線）	52,000	57,973	48,861	40,554	34,370	45,209	47,245	未達成
フェリー・高速船	362,000	362,871	139,101	194,624	278,160	300,194	331,623	未達成
コミュニティバス	89,000	95,930	78,297	89,003	99,258	100,998	114,092	達成
タクシー	86,000	95,602	56,409	57,475	69,381	75,764	84,065	未達成
計	1,480,000	1,602,954	1,074,605	1,157,580	1,263,880	1,402,385	1,491,938	

※対象期間は、第３次田原市地域公共交通戦略計画の目標に合わせ、４月から翌年３月末までとしている。

◆考察

・鉄道、コミュニティバスは目標達成。その他の交通モードは昨年度より増加したが目標は未達成。

・コミュニティバス以外は、コロナ禍以前の平成31年度まで戻り切っていない。

・伊良湖支線の一日当たりの輸送量実績は令和4年に15.2人まで落ち込んだが、令和7年度は19.4人まで増加した。

・特に高齢者の通院や買い物（外国人含む）等の定期外利用者が増加した。

・今後の人口減少に伴う利用者減少が懸念される。

（３）コミュニティバスに関する評価

区分		目標	実績値（※）						達成状況	利用者数（R6）	便数（R6）
			H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
ぐるりんバス	市街地線	1便当たり乗車人者数を5.0人以上にする。	4.1人／便	2.9人／便	3.4人／便	4.3人／便	5.2人／便	5.3人／便	達成	25,090人	4,745便
	童浦線		7.6人／便	5.6人／便	7.0人／便	7.9人／便	7.2人／便	9.2人／便	達成	44,658人	4,863便
	ｻﾝﾃﾊﾟﾙｸ線		3.6人／便	4.0人／便	4.4人／便	4.4人／便	4.1人／便	4.4人／便	未達成	24,294人	5,527便
ぐるりんミニバス	表浜線	1便当たり乗車人者数を3.0人以上にする。	2.9人／便	2.5人／便	2.5人／便	2.7人／便	3.8人／便	4.1人／便	達成	14,866人	3,650便
	中山線		2.7人／便	2.5人／便	2.3人／便	2.2人／便	2.1人／便	2.0人／便	未達成	5,184人	2,555便

※対象期間は、田原市地域公共交通計画別紙の期間に合わせて4月から3月末までとしている。

◆考察

・路線全体　：令和元年の路線再編以降、利用者数は最大となった。
・市街地線　：沿線の寮に居住する臨海企業従業員の利用により一定の利用者を確保している。
・童 浦 線　：臨海企業の外国籍従業員の増加に伴い利用者が増加した。
・ｻﾝﾃﾊﾟﾙｸ線：中学生の通学利用により、一定数の利用者数確保しているが、目標まで達していない。
　8月は小中学校夏季休暇の影響で利用者は減少。
・表 浜 線　：高齢者の通院や買い物利用者を一定数確保していることにより、目標達成が継続された。
・中 山 線　：沿線の人口減に伴い利用者数は減少。公共交通空白地を含めたデマンド運行の実証実験を開始した。

（４）路線バス【伊良湖本線（渥美病院田原駅前保美）】に関する評価

区分		目標	年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
伊良湖本線	渥美病院田原駅前保美	年間利用者数60,691人	年間利用者数【人】		63,045人	49,525人	56,637人	53,344人	51,407人
			平均乗車密度（実績）		4.9	3.7	4.0	4.0	3.3
			輸送量	(計画)	45.9人	25.2人	34.3人	23.8人	25.2人
				(実績)	34.3人	25.5人	27.6人	27.6人	22.7人
			収支率（実績）		72.1%	52.0%	53.5%	55.2%	44.6%

◆考察

・利用者数は対目標値84.7%、対前年96.3%となった。

・他系統も含めた伊良湖本線全体では、前年に対して定期は87.8%、定期外は101.3%となった。

・利用者数の減少の要因は、定期利用が減少したことによる。

・定期外利用者が増加していることから、通院や買い物等の普段使いの利用者にご利用いただけていると考えられる。

・旧町を跨いでの利用が利用者の多くを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。

・渥美病院への通院、田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。

（５）持続可能な公共交通に関する評価

目標	目標値	実績値達成状況（※）						目標達成状況
		H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
田原市ぐるりんバス収支率	10%以上	10.7%	9.3%	10.6%	10.5%	10.7%	12.5%	達成
路線バス及びぐるりんバスに係る市の財政負担額	185,000千円	156,176千円	163,544千円	168,246千円	191,908千円	203,190千円	208,268千円	未達成

※対象期間は、第３次田原市地域公共交通戦略計画の目標に合わせ、４月から翌年３月末までとしている。

◆考察

・田原市ぐるりんバス収支率については、ぐるりんバスの利用者が路線再編以降最大となったこともあり、昨年に引き続き、目標値を達成。

・路線バス及びぐるりんバスに係る市の財政負担額については、路線バス確保維持改善補助金の増額により目標値未達成。

・人件費や燃料費の高騰等により補助金が増額している。

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針　の作成

計画目標の 現在の到達点	今後の取組方針
・市内公共交通利用者数、 目標達成 目標値：148.0万人 実績値：149.2万人 達成率約100.8%	・運転免許証自主返納事業、高校生通学バス定期券購入助成を継続実施。 （高校生通学バス定期券購入助成については今年度拡充済み） ・東三河地域と連携した広域的な利用促進を継続実施 ・現在の生活様式に対応した公共交通の在り方の検討を実施 ・交通系ＩＣカード利用実績の分析によるダイヤ・路線網等の最適化 ・伊良湖支線の観光地（菜の花ガーデン）への延伸の平日拡大等、引き続き路線バスの運 行について運行事業者及び沿線地域と連携して利用促進を図る。
・ぐるりんバス１便当たり乗車数 目標達成：市街地線、童浦線、表浜線 目標未達成：ｻﾝﾃﾊﾟﾙｸ線 中山線 ＊利用者数は令和元年の再編以降最大の利用者数を達成	・東三河MaaS「いこまい」等と連携し、DX等の技術を活用した利用促進の継続、 ・QR決済利用の促進による利便性の向上 ・引き続き関係機関と連携した利用促進策等を実施し、官民一体となった「守り育てる」公共交通利用促進事業を検討 ・路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域と利用促進策を検討し実施 ・バス停ごとに利用者の分析を行い、利用実態に合わせて、変更が必要な場合は随時ダイヤ・ルート等の変更を実施 ・中山線のデマンド運行の実証実験の結果を検証し、当該地域に最適な運行方法等について検討
・ぐるりんバス収支率 目標達成 ・路線バス及びぐるりんバスに係る市の財政負担額 目標未達成	・路線バスの補助金額については、運転士確保に係る経費の上昇や物価高騰の状況に応じ、目標値の設定について再検討

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
前回	・路線カルテによる利用状況等の検証と地域や関係者との情報共有を継続するとともに、さらなる利用促進に向けた施策を積極的に展開されることを期待します。	・路線カルテによる利用状況等の検証を継続し、地域や関係者と協力した利用促進を実施している。	・引き続き、路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進策を検討し実施する。
	・東三河交通圏内の鉄道・バスへの交通系ＩＣカードの導入・利用可能範囲拡大に際して、関係市町村で連携した周知を行うとともに、今後はそれにより得られるデータを活用して利用状況や需要の分析を行い、更なる利用促進につなげることを期待します。	・交通事業者からの報告を受け、順調に交通系ＩＣカードへの移行が進んでいることを確認した。 （R7.4～9の利用率：定期外利用の61.3%) ・今後、ＩＣ定期券でないものも、順次交通系ＩＣカードに切り替わることから、より詳細な乗降データ等の収集が期待できる。	・交通事業者及び関係市町村と連携して、交通系ＩＣカードの更なる普及を図る。 ・収集された乗降データ等を多角的に分析し、より利便性の高いダイヤ編成や路線網の最適化について検討する。
	・引き続き、広域の市町村及び交通事業者と連携し、公共交通の利用促進や利便性・持続性の向上に繋がる取組が継続されることを期待します。	・交通事業者と東三河関係自治体との間で持続可能なバス運行に関する連携協定を締結した。(R7.4） ・バス運行に係る補助用件等を統一したほか、バスの運行を維持確保及び改善するための取組について相互に連携協力することとした。	・引き続き、交通事業者及び東三河関係自治体と連携して、公共交通の確保維持及び利便性の向上を図る。

※前回：令和7年3月27日

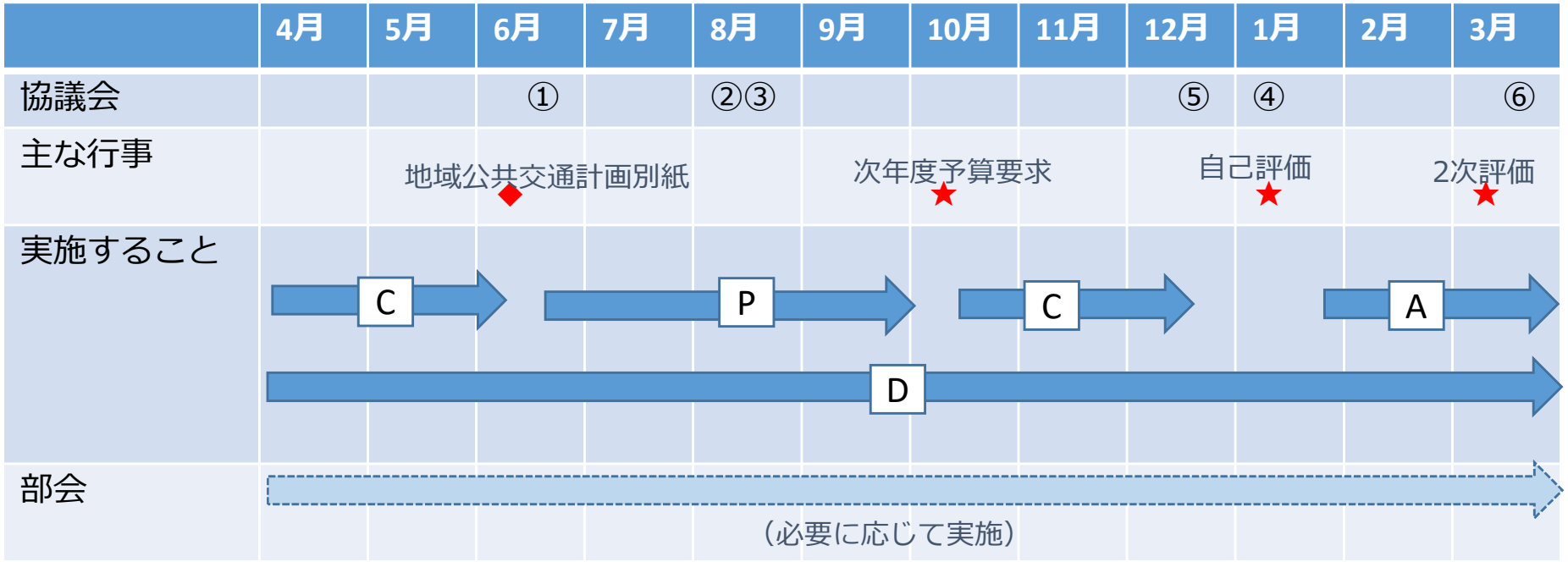
5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
前々回	・地域間幹線系統である伊良湖支線（福祉C堀切）については、輸送量等の推移を注視し、引き続き、検証や利用促進に向けた施策が実施されることを期待します。	・沿線地域への利用促進等により、低迷していた輸送量は徐々に回復傾向にある。（令和4年度15.2、令和5年度19.4、令和6年度20.2）	・期間限定の観光地への延伸やサイクルラックバスの実証実験、地域との情報共有等、路線維持の取組を実施する。
	・引き続き、路線カルテによる利用状況等の検証を行い、地域や関係者との情報共有や利用促進、利便性向上に向けた施策につなげていくことを期待します。	・路線カルテによる利用状況等の検証を継続し、地域や関係者と協力した利用促進を実施している。	・引き続き路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進策を検討し実施する。
	・現在改定作業中の公共交通計画も踏まえ、地域や交通事業者をはじめ多様な主体と連携し、地域の公共交通の確保維持や利便性向上につながる施策に取り組むことを期待します。	・第3次田原市地域公共交通戦略計画に掲げる重点施策（ぐるりんバス中山線のデマンド運行検討、夜間のタクシー輸送量不足の解消）について、分科会を設置し、関係者や地域住民と意見交換を実施しながら公共交通の確保維持について検討を進めている。	・関係者や地域住民との意見交換を継続し、地域に適した運行方式へ変更を実施する。
	・引き続き、関係者と連携し、幅広い層への利用促進等に取り組むことを期待します。	・高齢者や親子連れ、外国人等、多様な世代に向けた利用促進策を実施している。	・引き続き、交通事業者や地域等と協力して利用促進策を実施する。

※前々回：令和6年3月21日

6.計画・評価の推進体制

＜年間単位の進捗管理、評価スケジュール＞



【協議会の実施状況】

○第68回協議会⑤　令和6年12月27日
主な議題：令和６年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価（案）について［承認］
○第69回協議会⑥　令和7年3月27日
主な議題：令和7年度事業計画・収支予算（案）について［承認］
○第70回協議会①　令和7年6月24日
主な議題：田原市地域公共交通計画　別紙（令和８年度）（案）について［本計画の承認］
○第71回協議会②　令和7年8月15日（書面会議）
主な議題：田原市地域公共交通会議　別紙（令和８年度）の変更について［承認］
○第72回協議会③　令和7年8月20日
主な議題：ぐるりんミニバス表浜線の運行事業者の選定についてについて［承認］
○第72回協議会④　令和8年1月9日
主な議題：令和７年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価（案）について［承認］